

様式31 病虫害等の被害状況調査整理表

		2 枚中	1 枚目
保護林名	荒尾山モミ希少個体群保護林		
森林管理局署名	関東森林管理局 荒尾森林管理署		
文献概要			
被害区分	<input checked="" type="checkbox"/> 病虫害 ・ <input type="checkbox"/> 鳥獣害 ・ <input type="checkbox"/> 気象害 ・ <input type="checkbox"/> その他 ()		
詳細	例：松枯れ		
発生時期	平成 27 年頃～		
整理番号	例：1		
資料名	例：平成 28 年度 荒尾山周辺松枯れ被害緊急調査報告書		
入手先	文献の入手先や閲覧可能場所・保管場所等を記入します。 例：関東森林管理局・図書室		
被害面積 (ha)	例：5		
資料概要	※文献の内容を吟味し、概要を記載します。現地調査地点が明示されている場合は、その位置情報を記入します。 例：平成 27 年より、松枯れが発生。林分調査を実施し、保全対策を検討。		
位置情報 (世界測地系)	※現地調査地点が明示されている場合は、その位置情報を記入します。図面のみで示されている場合は、地図上 (GIS や地図ソフト等) から読み取った地点を記入します。 例：N: 35 度 39 分 17.51 秒 E: 139 度 44 分 40.50 秒		

様式32

病虫害等の発生状況調査表

			全 1枚中 1枚目
保護林名	林小班名	プロット No.	調査年月日
荒尾山モミ希少個体群保護林	荒尾山国有林 238 林班に小班	1	平成 29 年 7 月 1 日

対象: 胸高直径 5.0cm 以上の被害木

調査区画			小 中 大		ナンバーテープ色等				黄色					
ナンバーテープ等 立木番号			小数第1位まで計測		枯 損	空 洞 裂 傷 ヤニ 先 折 れ	幹 折 れ キ ノ 変 色 落 食	剥 皮 枝 葉 食	獣 害 種	株 ノ 二 又	根 曲 ノ 斜 立	備 考	エ リ ア ① ⑧	
新	旧	樹種	胸高 直径 cm	樹高 m 20 本以上										
1	59		モミ	8.8	5.3	枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜	雪害の可能性	①
2	60	939	モミ	42.6	20.8	枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		②
3	61	942	モミ	38.8	18.8	枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		⑤
4	62	947	モミ	35.5	19.7	枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		⑤
5	63	951	ブナ	30.5	18.4	枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜	クマの爪痕あり	⑥
6	64		モミ	12.2	8.3	枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		⑦
7						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
8						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
9						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
10						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
11						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
12						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
13						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
14						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
15						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
16						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
17						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
18						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
19						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
20						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
21						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
22						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
23						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
24						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		
25						枯	洞 裂 先 折 れ	キ 落 キ 折 色	剥 食	カ マ ハ ネ	株 又 株 又 株 又	曲 斜 曲 斜 曲 斜		

※ 胸高直径及び樹高は小数第1位まで計測
 ※ エリアは円形を8等分し、北から右回りで①～⑧とします



様式33 文献調査整理表

保護林名		荒尾山モミ希少個体群保護林		
森林管理局署名		関東森林管理局 荒尾森林管理署		
No.	文献名	著者名	発表年	入手先・保存先
1	荒尾山における先駆性高木種5種の地形分布と樹形の意義	河野 健介	2017	関東森林管理局
2	荒尾山の植物相	山内 浩一	2016	関東森林管理局
3	荒尾山天然林の生態ならびにフロラの研究	小林 博	2016	関東大学図書館
4	荒尾山の野鳥 その移り変わり	伊吾田 恵	2015	荒尾森林ふれあい推進センター
5	小学校の森林体験学習支援を通じた教育大学の社会貢献について	小野 真子	2014	荒尾森林ふれあい推進センター
6	都市近郊林に生息するニホンリスの行動圏面積	山中 輝光	2013	関東森林管理局
7				
8				
9				
10				

回廊名		荒尾山緑の回廊		
森林管理局署名		関東森林管理局 荒尾森林管理署		
No.	イベント名	実施年月日	実施主体	参加者数
1	春の香りに誘われて～スマレの観察会	平成25年4月8日	森林インストラクター荒尾会	30
2	山笑う荒尾山を熟年者とゆっくり歩く	平成26年4月22日	NPO 法人森とたんぼクラブ	20
3	荒尾山初夏の親子自然観察会	平成26年6月5日	ARAO エコロジー村	30
4	ハイキングと自然観察	平成27年10月30日	NPO 法人森と人のネットワーク	40
5	環境学習	平成27年11月8日	荒尾パークボランティア会	30
6	自然観察会 A	平成28年7月17日	荒尾森とのふれあい推進センター	30
7	自然観察会 B	平成28年8月6日	荒尾森とのふれあい推進センター	30
8	自然観察会 C	平成28年9月11日	荒尾森とのふれあい推進センター	30
9	初めての野鳥観察	平成29年1月26日	森林インストラクター荒尾会	20
10				



様式35	聞き取り調査整理表
------	-----------

保護林名	荒尾山モミ希少個体群保護林		
森林管理局署名	関東森林管理局 荒尾森林管理署		
No.	対象者（所属等）	日時	主なヒアリング項目
1	林田 健（荒尾森林管理署 保全課）	平成28年1月30日	保護事業・管理体制
2	中林 里美（荒尾自然史研究会）	平成28年1月30日	環境教育
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

保護林名・回廊名	荒尾山モミ希少個体群保護林
ヒアリング日時・場所	平成 28 年 1 月 30 日 13:30 ~ 14:30 荒尾公民館談話室
ヒアリング対象者	林田 健（荒尾森林管理署 保全課）
ヒアリング実施者	大林 保（いろは森林協会）
ヒアリング項目	ヒアリング結果
例：野生鳥獣の保護管理	ニホンジカの生息密度が高まり、食害による更新阻害が生じている。平成 27 年に緊急対策として、50m四方の防鹿ネットを設置し、モミの稚樹等後継樹の保護を図っている。
例：外来種対策	保護林近辺のアカマツ林で松枯れの発生が確認され、薬剤注入により保全対策を行なっている。対象面積は 2 ha で、130 本が該当している。当該保護林内にもアカマツがあり、経過観察することが望まれる。
例：管理体制	<p>月 1 回の巡視を実施している。主な巡視点は不法投棄の監視と、保護林のモミの生育状況の記録である。防鹿ネット設置以降は、柵の破損やたるみが生じていないかも点検している。</p> <p>巡視で得られた情報、例えば倒木による歩道の遮断や防鹿ネットの破損等の報告を受けて、迅速に管理作業を実施している。27 年は緊急的に出動したのは 3 件であった。（倒木処理 2 件、ネット養生 1 件）</p>
例：普及・啓発	また、荒尾自然史研究会が主催する自然観察会を年 4 回（四季）実施している。地元住民を対象に、保護林内の動植物の観察を通じ、森林環境の重要性の啓蒙普及を行なっている。今年で、5 年目となり、毎回 10~20 名の参加者がある。
例：その他 課題・問題点等	上層を構成しているモミは健全に生育しているが、次世代を担う稚樹や幼樹が少ない。そのため、低木層及び林床植生の植生変化に留意する必要がある。防鹿ネットを設置しているが、その維持管理が必須となっている。